

令和5年度 西粟倉小学校学校評価書

A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った

本年度の重点	達成目標	重点的取組・指標	自己評価（中間）		自己評価（最終）		総合評価	評価・改善方策等	備考 アンケートとの関連
			状況	評価	状況	評価			
1 基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の伸長を目指し、学力の向上を図る。	図と言葉と式を関連付け、筋道立てて説明・記述することができる。 【岡山県学力・学習状況調査】（令和4年度5月実施）と【村独自標準学力調査】（令和5年度12月実施）の算数科記述式問題の正答率を全国・県平均以上にする。 【説明・記述する力】	算数的な見方・考え方、図と言葉と式の関連付けを意識させ、算数用語を使い筋道立てた説明や記述ができることを授業改善の視点とした校内研究を進める。 ★APチェックシート（教員）「既習事項を活用して筋道立てた説明や記述ができる児童の育成をしよう」と授業改善や取組を行っている。」の項目で肯定率80%以上★学校評価アンケート（児童）「授業では、自分の考えをもち、説明することができる。」の項目で肯定率80%以上	APチェックシート肯定率76.3%、児童アンケート肯定率64.6%。授業の中で自分の考えを書き、説明をする時間の確保とともに、称賛をすることで児童の意識の向上を図る。また、校内研修の場では、取組の共有や成果と課題を職員間で出し合いながら、学校全体での取組を進めていく。	B	B	B	B	村学力調査の算数科記述問題の正答率は、全学年で全国平均を上回ったが、どの学年でも図や式、言葉を使いこなして考えをもち、説明したり、記述したりしているとは言いえない。そこで来年度は①校内研修と毎日の授業をAP実践交流でつなぐ。②AP実践交流では目的や意図を含めた具体的な発問や手立ての交流を行う。③授業の中で、視点を意識した振り返りを行うことで、めあての達成感を味わわせ、具体的に価値づけをする、この3点を中心にした取組を進める。	県学力調査（4月） 村標準学力調査（12月） 教員ア④ 児童ア⑧
		ハイチャレンジ（4～6年）の時間に、到達度確認テスト、全国学力調査の過去問題、問題データベースの過去問題から文章で答える問題（国語・算数）を課す。授業では、単元で1回以上文章で答える問題を課す。 ★APチェックシート（教員）での「ハイチャレンジ（4～6年）の時間に、到達度確認テスト、全国学力調査の過去問題、問題データベースの過去問題から文章で答える問題（国語・算数）を課す。授業では、単元で1回以上文章で答える問題を課す。」の項目で肯定率90%以上	APチェックシート（教員）では肯定率が100%。ハイチャレンジでは、正答率の低い問題の解きなおしをしたり、本校の重点課題に沿った問題に取り組んだりした。事前事後の担任と他教員との共有をしっかりと図ることで、より効果的な指導を続けていく。	B	B	B	B	教員ア⑤	
2 自他を尊重する心の教育の充実を図る。	試行錯誤しながら、粘り強く取り組むことができる。 価値ある新たなものを求め、創り出すことができる。思いやり・優しさをもち、違いを認め、ともに学び合うことができる。 【1・2年アンケート、3年以上iチエック】（5、12月実施） 「自分なりに努力したことがうまくなって、うれしかったことがありますか」 「友達の意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが認められたりして、勉強っておもしろいと思うことがありますか」 「友達が喜んでくるときは、一緒に喜び、悲しんでいるときは、励ましていますか」の肯定的回答割合を増やす。 【課題を解決する力】	（自信）生活科・総合「ふるさと元気学習」等での体験や経験、振り返りで学んだことを他学年や地域の方、他校へ発信する場を設定する。また、課題を発見し、解決に向けて粘り強く取り組む力を高めるため、学級活動で児童が活躍する自治的な活動の場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「学級での話し合いを生かして、自分が努力することを決めて取り組んでいる」の項目で肯定率80%以上★APチェックシート（教員）での「課題を発見し、解決に向けて粘り強く取り組む力を高めるため、学級活動で、児童が活躍する自治的な活動の場を設定している」の項目で肯定率80%以上	児童の肯定率は70.7%、教員は83.3%であった。学級活動等での話し合いで何をしたらよいか明確になっている児童が多いことが伺える。一方で、取組を難しいことでも諦めず、挑戦していくとする高い意識がうかがえる。児童が振り返りを書いたり、帰りの会等で言ったりすることを今後も継続して取り組むことで、さらに自信へとつなげていきたい。	B	B	B	B	【1・2年アンケート、3年以上iチエック】（5、12月実施） 「自分なりに努力したことがうまくなって、うれしかったことがありますか」 学年差はあるものの、肯定率は概ね高く、数値が向上している学年もある。 「友達の意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが認められたりして、勉強っておもしろいと思うことがありますか」 肯定率に、ばらつきがある。児童のどんな力をつけさせたいか、教師が意識して授業に臨めるよう校内研修の場で話し合っていく。 「友達が喜んでくるときは、一緒に喜び、悲しんでいるときは、励ましていますか」 肯定率は概ね高い。 具体的な場面での賞賛や紹介を繰り返すことで、児童の意識を高めていきたい。	児童ア⑭ 教員ア⑦
		（チャレンジ）自らを高めようとする目標をもち、自分の成長を実感できるようにするため、キャリアパスポートを活用して学期初めに目標を児童と共有し、途中経過を確認しながら児童が振り返りをする場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」の項目で肯定率80%以上★APチェックシート（教員）「自らを高めようとする目標をもち、自分の成長を実感できるようにするため、キャリアパスポートを活用して学期初めに目標を児童と共有し、途中経過を確認しながら児童が振り返りをする場を設定する。」の肯定率80%以上	児童の肯定率は76.9%、教員の肯定率は37.5%であった。学期途中の振り返りの場をより多く設定したり、他学年の取組やキャリアパスポート活用の交流を校内研修の時間に行ったりすることで、自分の成長をより実感できるようにする。	B	B	B	B	児童ア⑮ 教員ア⑧	
		（つながり）相手意識を持ち、人の役に立ちたいという思いや感謝・憧れの気持ちを育むため、遊ぼうデー、朝学、わくわく読書（ペア読書）、縦割り掃除での異学年活動の場を設定する。 ★学校評価アンケート（児童）「自分は他の人の役に立っている」の項目で肯定率80%以上★APチェックシート（教員）「相手意識を持ち、人の役に立ちたいという思いや感謝・憧れの気持ちを育むため、遊ぼうデー、朝学、わくわく読書（ペア読書）、縦割り掃除での異学年活動の場を設定する。」の項目で肯定率90%以上	「自分は他の人の役に立っている」と回答した児童の割合は78.4%。「遊ぼうデーなど異学年交流の場を設定している。」教員の肯定率は71.4%である。一人一人の役割を与えて活動し、振り返る活動までを異学年交流で行う意識が高まってきた。今後も取組の紹介や賞賛場面を増やすことで個々の活動が人のために役立っている意識を高めていく。	B	B	B	B	児童ア⑩ 教員ア⑨	
		西粟倉小学校いじめ問題対策基本方針に則り、いじめの未然防止、早期発見、対処がなされている。また、学校が楽しいと感じ、友達と仲良くできる。 ★学校評価アンケート（児童）「楽しく遊べる友達がいる」の項目で肯定率80%以上★学校評価アンケート（保護者）「子どもは学校生活を楽しくできいきとしている」「子どもは楽しく遊べる友達がいる」「学校は一人ひとりの子どもを大切に、いじめのない仲間づくりにつとめている」の各項目で肯定率80%以上	児童の「楽しく遊べる友達がいる」の肯定率は90.7%。いじめ早期発見のため、担任やSCが学級の児童と教育相談を行い、悩み等を聞く機会としている。また、各学級の児童の実態交流を定期的に行い、全職員での共通理解を今後も継続していく。	B	B	B	B	児童ア⑨ 保護ア⑤⑥⑦	
3 特別支援教育の充実を図る。	だれ一人取り残さない全員参加の授業や活動を目指し、どの子もいきいきと学校生活を送ることができる。 【学習環境の向上】	ユニバーサルデザインの視点をいかした、わかりやすい授業づくりを目指す。★学校評価アンケート（児童）「先生はわからないこと、質問や疑問について、わかりやすく教えてくれる。」「学校の授業がわかる」の項目で肯定率どちらも90%以上	児童の肯定率は、90.7%と87.6%であった。ルールの明確化や互いを認め合う場の工夫など学習環境の整備をより進めていく。	B	B	B	B	「わかった」「できた」の声がより増えるよう、ルールの明確化や互いを認め合う場の工夫など学習環境の整備をより進めていく。	児童ア②③
4 自ら進んで運動に親しみ、生涯を通じて継続的に運動する能力と態度を育てる。	集会、委員会活動や学年の教科体育の中で、自発的に体を動かす習慣をつける。 【進んで運動する力】	天気の良い日には学年を超えて、外に出て遊んだりいろいろな運動に挑戦したりする。また、各種の運動週間に積極的に取り組み、自己の能力を高めようとするとともに、県のチャレンジランギンに1種目以上参加する。 ★学校評価アンケート（児童）「休み時間には、外でしっかり体を動かして遊んでいる」の項目で肯定率80%以上	鉄棒、水泳、ハードル週間とその時期にあった運動を全校で取り組めるようにした。児童の肯定率は63%。遊ぼうデーや体育委員会からの呼びかけなど、外遊びを促す取組をしていく。	B	B	B	B	児童の肯定率52.3%。持久走、マット跳び箱、なわとびなど各種の運動週間に取り組むことで、体を動かす機会を多く設けることができた。県のチャレンジランギンにも、多くの種目に参加することができた。	児童ア⑯
5 体験学習や「ふるさと元気学習」を通して、ふるさと西粟倉を愛する心を育てる。	ふるさと自然・産業・人を教材として、体験活動を交えて学ぶ。 【体験から学ぶ力】	「ふるさと元気学習」で意欲的に調べたり、考えたりすることができる。 ★学校評価アンケート（児童）「ふるさと元気学習」の時間は、考えたり、調べたり、まとめたりすることをがんばっている」の項目で肯定率80%以上★APチェックシート（教員）「生活科・総合ふるさと元気学習で他学年や地域の方、他校へ発信する場を設定している」の項目で肯定率80%以上	児童の肯定率は90.7%、職員は83.3%であった。ふるさと西粟倉を知るよい機会として教育コーディネーターと連携した取組を行った。今後は、学習してきたことをICT等を活用してまとめ、外部へ向け、しっかり発信していく。	A	A	A	A	「ふるさと元気学習」で体験したり、学んだことを生かして、ふるさと西粟倉の良さを再発見し、情報を発信する場を継続して設定する。また、情報機器の活用もさらに進めていく。	児童ア⑰ 教員ア⑥
		地産地消の推進などを通して、食育の充実を図り、正しい食習慣を身につける。 【食から学ぶ力】	「食」に興味・関心をもち、自分でも健康な体をつくるために意欲をもって食事ができる。 ★学校評価アンケート（児童）「給食の時間は、食べ物の話を聞いて、食べ物を大切にしたり、残さず食べよう」とがんばっている」肯定率90%以上	ふるさと元気給食やものがたり給食、委員会児童を中心とした毎日の献立の紹介など行った。児童の肯定率は96.9%と、食に対する興味・関心が非常に高い。	A	A	A	A	毎日の給食時や学級活動の時間での食育指導など、今後も積極的な取組を行う。